

画期的機能を持つ接ぎ木システムの実用化と接ぎ木効率を向上させる 接ぎ木促進剤の開発

1 代表機関・研究統括者

国立大学法人 名古屋大学 白武 勝裕

2 研究期間：2019～2021 年度（3 年間）

3 研究目的

接ぎ木は日本が世界に誇る農業技術である。本課題では『① 従来の概念にない画期的な接ぎ木システムの開発』と『② 接ぎ木成功率を向上させる画期的な接ぎ木促進剤の開発』に取り組む。

4 研究内容及び実施体制

① 画期的な接ぎ木システムの開発（穂木を高機能化する接ぎ木システムの開発）

トマトを高糖度化する接ぎ木システムの養液栽培における実用性とナスの害虫忌避性を向上する接ぎ木システムの実用性を評価する。
（埼玉県農業技術研究センター）

② 画期的な接ぎ木促進剤の開発と台木が穂木を高機能化するメカニズムの解明

基礎研究ステージで特定した接ぎ木促進剤候補の処理濃度の検討と混合処理試験を実施し、実用的な接ぎ木促進剤の開発を進める。
（名古屋大学生命農学研究科, 立命館大学生命科学部, 理化学研究所 CSRS, グランドグリーン(株)）

5 達成目標

トマトを高糖度化する接ぎ木システムの養液栽培と接ぎ木を用いたナスの害虫忌避性を向上させる栽培技術の実用性を評価するとともに、接ぎ木苗の生産を効率化する画期的な接ぎ木促進剤を開発する。

6 期待される効果・貢献

接ぎ木を用いた手間がかからない高糖度トマトの養液栽培技術と殺虫剤散布回数を減らしたナスの栽培技術が確立できる。また、画期的な接ぎ木促進剤により接ぎ木苗の生産効率を飛躍的に向上できる。

【研究の目的・背景】

接ぎ木は日本で進化した世界に誇る農業技術，その技術にイノベーションを！

国内の接ぎ木苗生産は年間7億本以上，海外でも接ぎ木の利用が爆発的に増加，さらなる接ぎ木技術の発展のために・・・

【研究内容・実施体制】

害虫忌避性向上

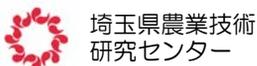


高糖度化

目標①
画期的な接ぎ木
システムの開発

台木が穂木を高機能化する
接ぎ木システムを開発

- ① トマトを高糖度化する接ぎ木システムの養液栽培への適応評価
- ② ナスの害虫忌避性を向上する接ぎ木システムの実用栽培での検証



埼玉県農業技術
研究センター



＜異科接ぎ木の発見＞
タバコ属植物の
種・属・科を越えた
驚異的な接ぎ木能力

【基礎研究ステージ】
接ぎ木促進剤の候補

濃度の検討
混合処理試験

目標②
画期的な
接ぎ木促進剤
の開発

接ぎ木チップを活用した
産業的なトマトの
接ぎ木苗生産に活用

GRA & GREEN

グランドグリーン株式会社

作用機作の解明

なぜ台木によって穂木が高機能化するか？
台木から穂木へのシグナルは？

【達成目標】

1. 『トマトを高糖度化する接ぎ木システム』の養液栽培への適応評価。
2. 『ナスの害虫忌避性を向上する接ぎ木システム』の実用栽培での検証。
3. 接ぎ木促進剤の候補物質の濃度検討と混合処理により『画期的な接ぎ木促進剤』を開発。

【期待される効果・貢献】

1. “接ぎ木を用いた”『手間がかからない高糖度トマトの養液栽培技術』と『殺虫剤散布回数を減らしたナスの栽培技術』を確立できる。
2. 『画期的な接ぎ木促進剤』の開発により，接ぎ木苗の生産効率を飛躍的に向上できる。